

景況動向指数(Diffusion Index)

(2023年1月～3月)



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 (2 0 事 業 所)

建 設 業 (2 0 事 業 所)

卸 小 売 業 (2 0 事 業 所)

飲 食 宿 泊 業 (2 0 事 業 所)

サ ー ビ ス 業 (2 0 事 業 所)

* 調査期間 2023年1月～3月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

* D I とは？

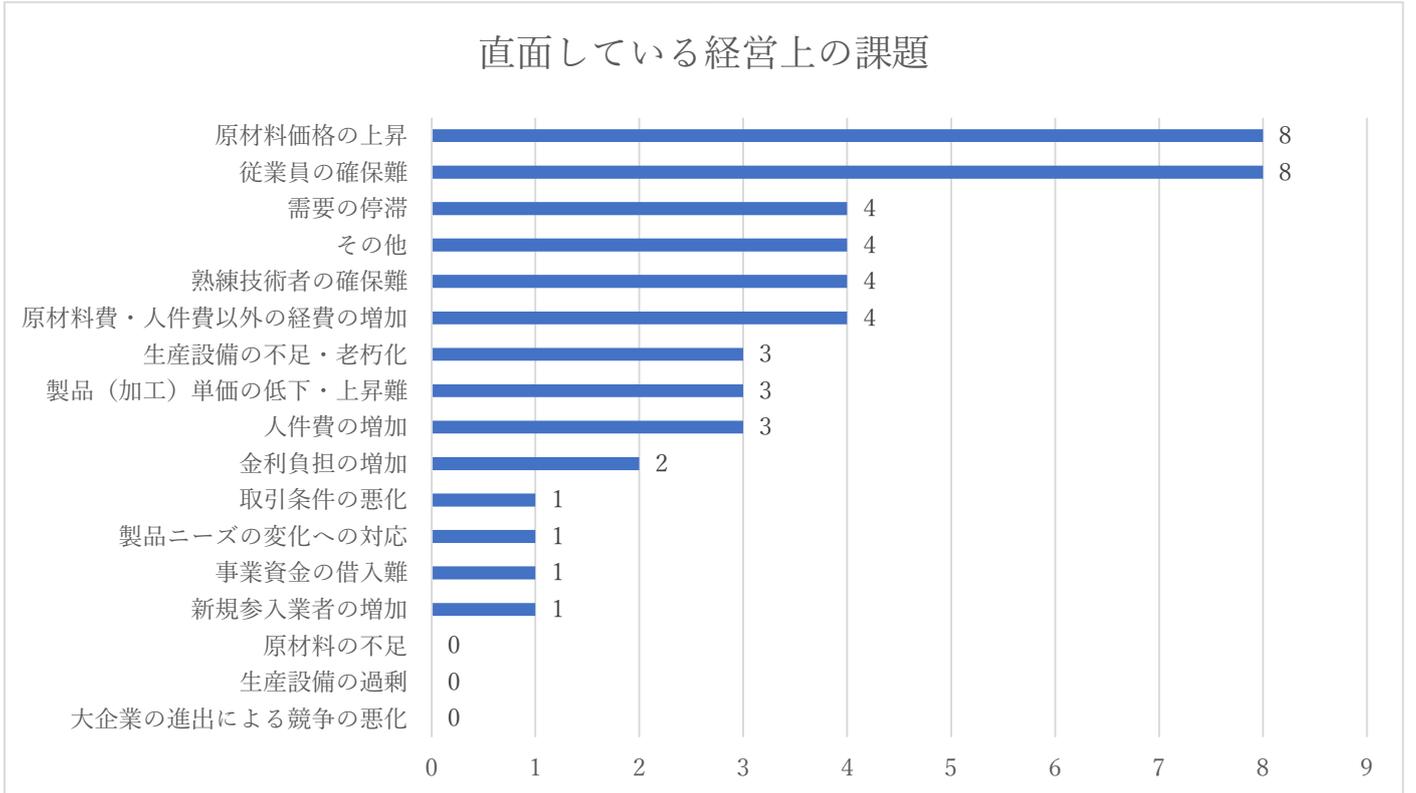
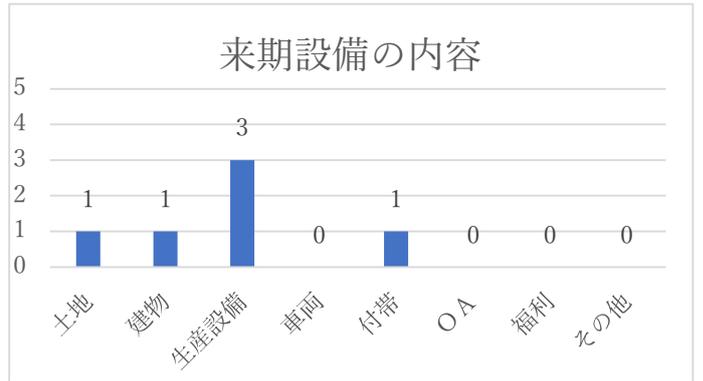
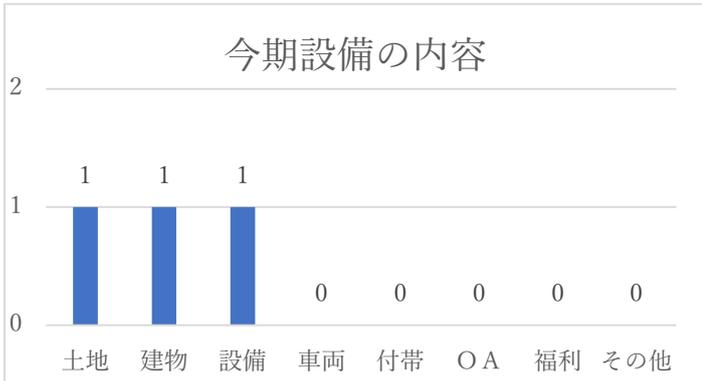
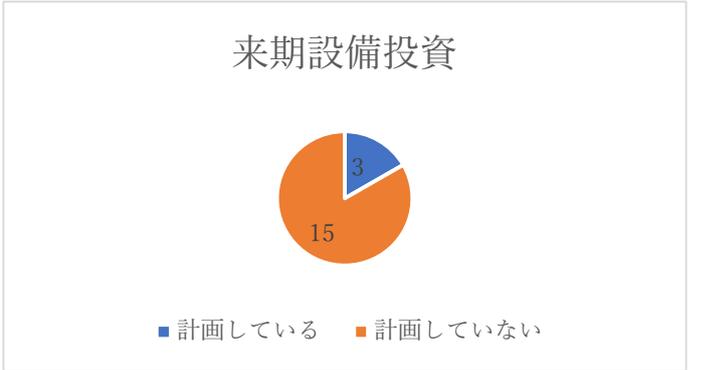
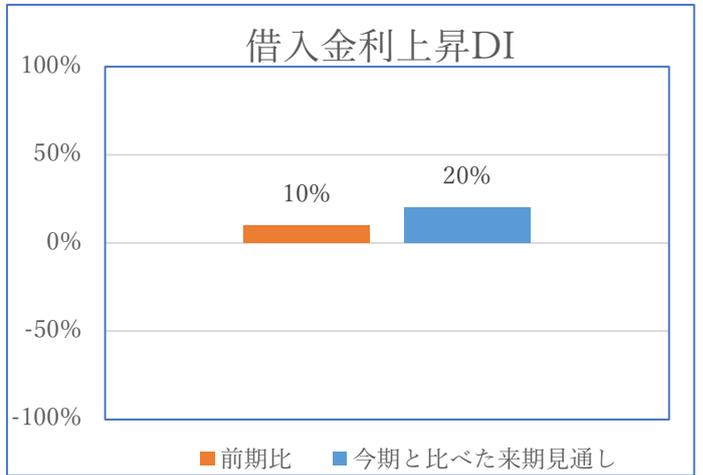
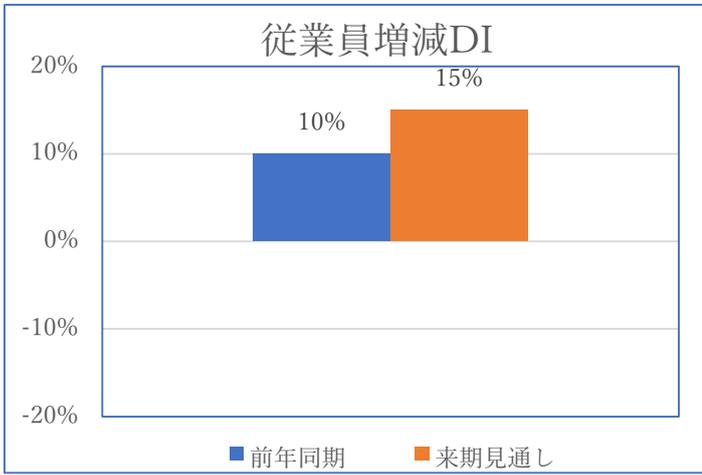
本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$ となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。



建設業（2023年1月～3月）DI 値抜粋

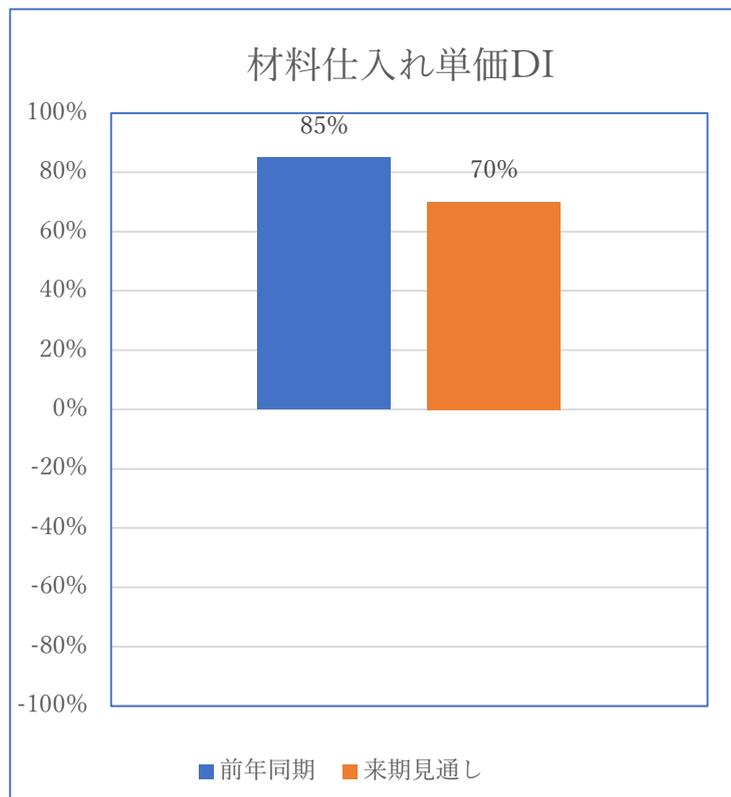
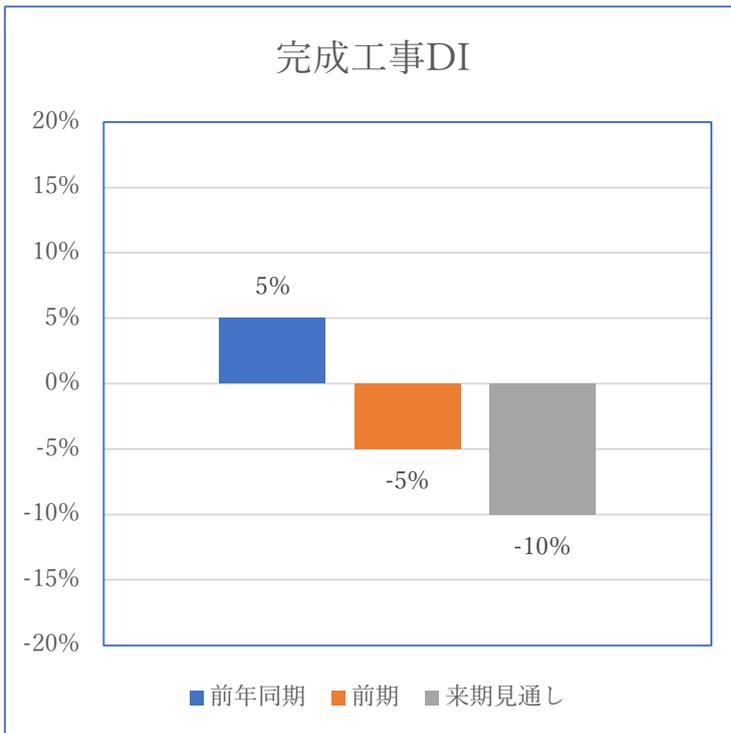
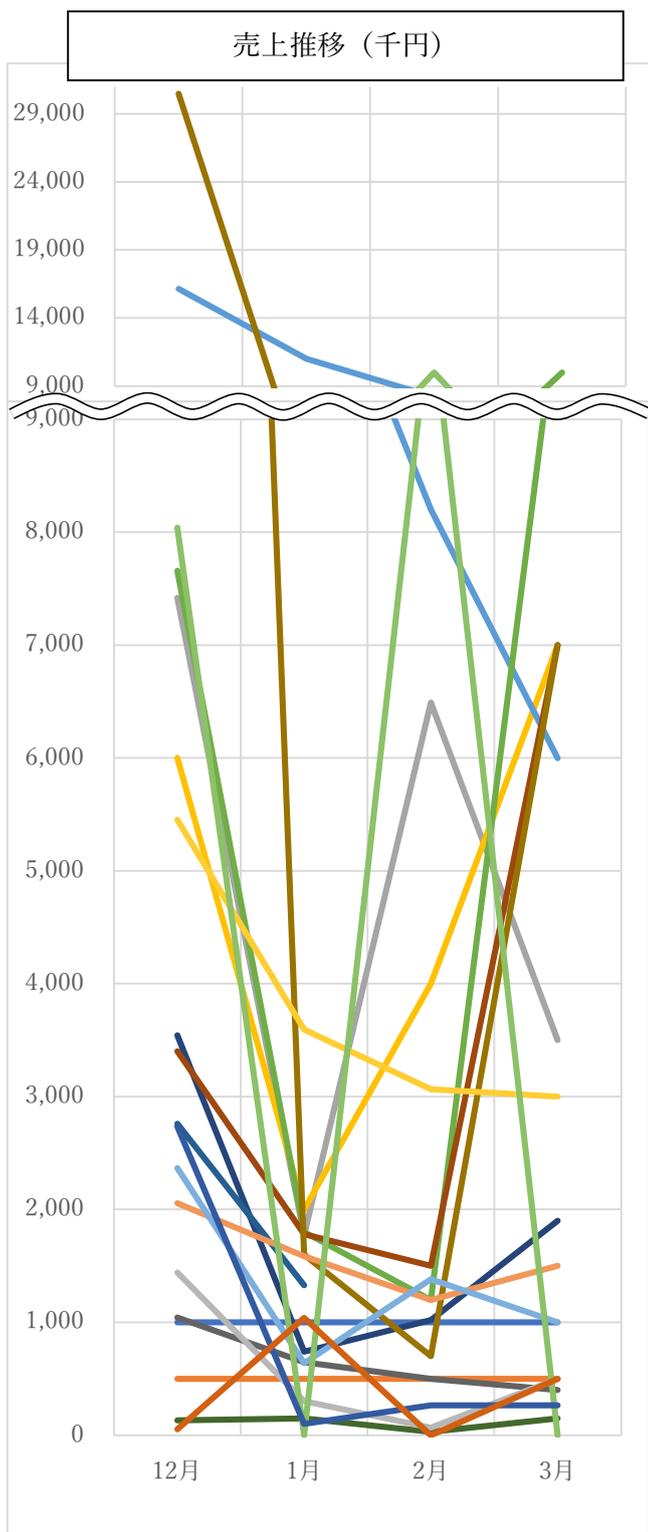
コメント

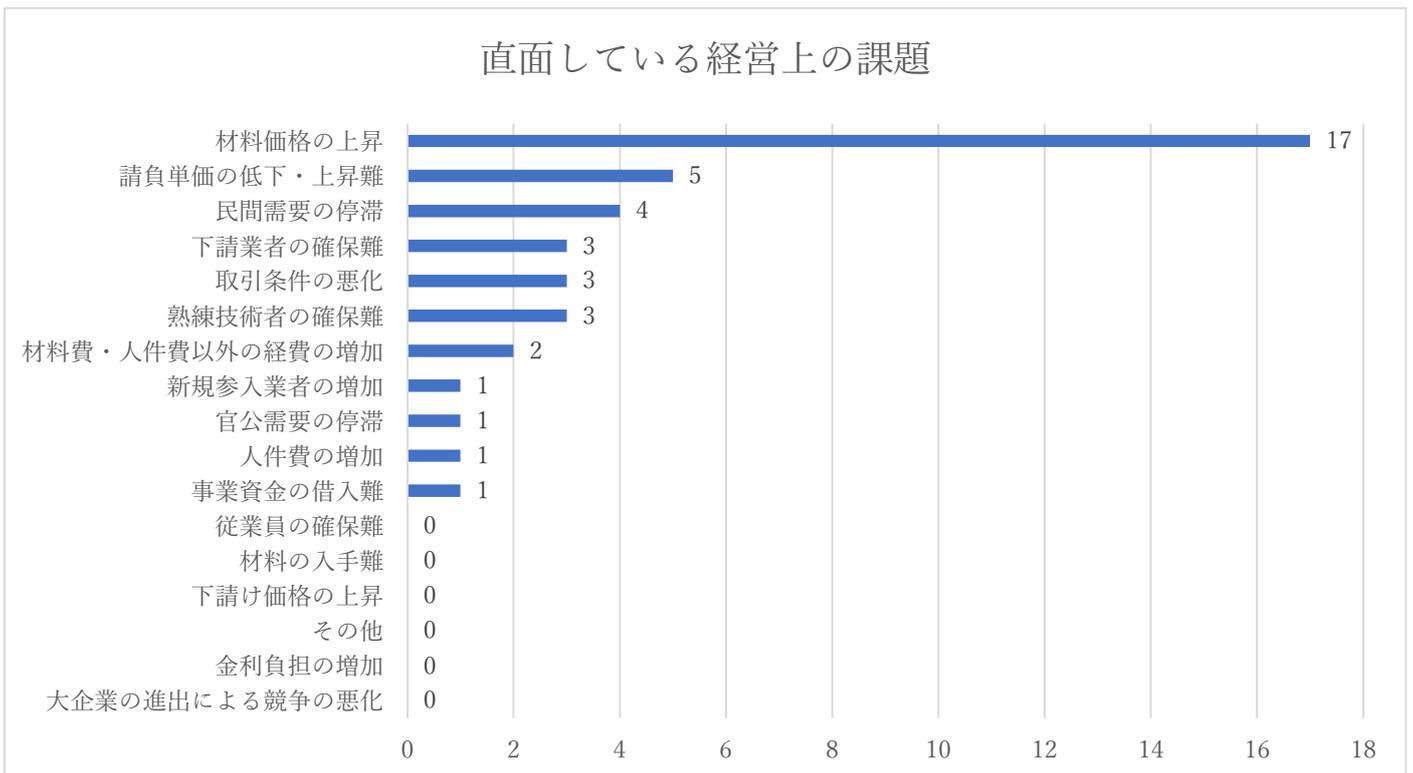
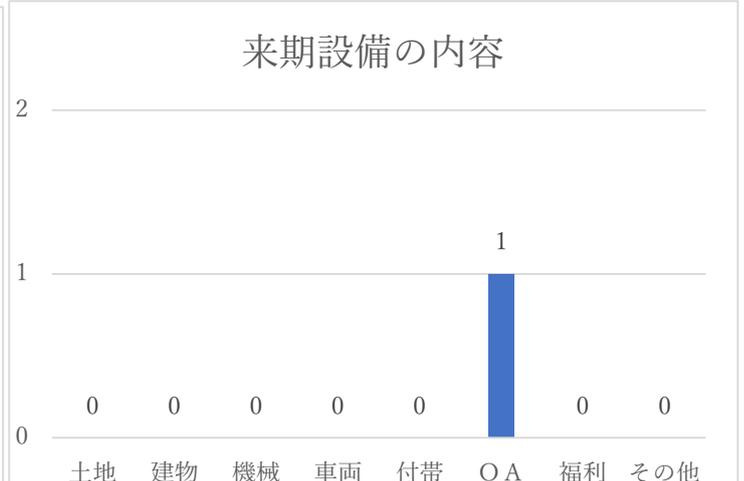
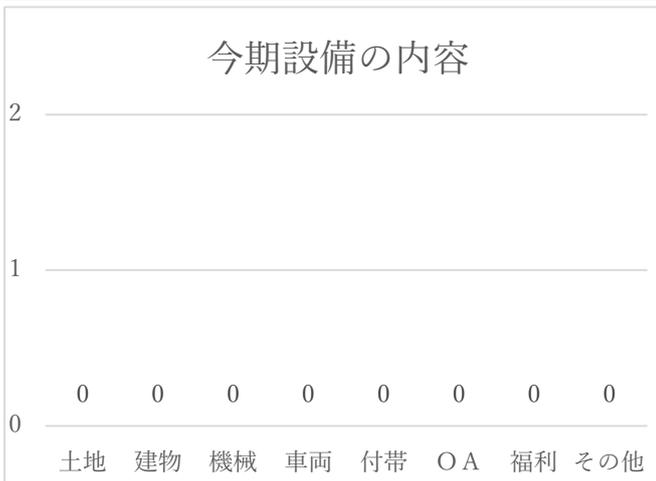
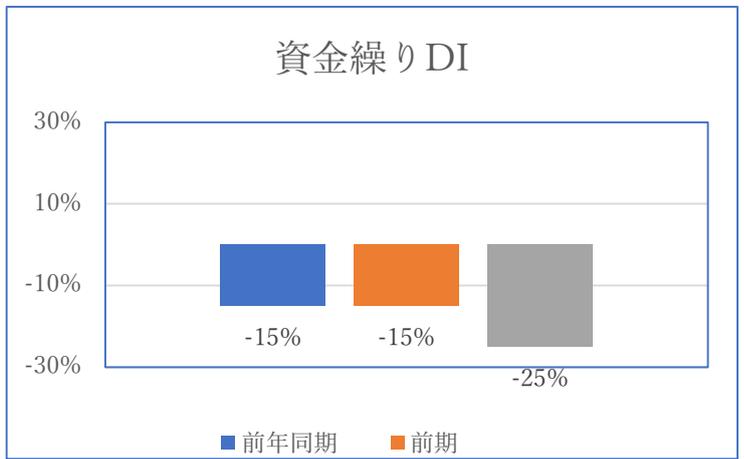
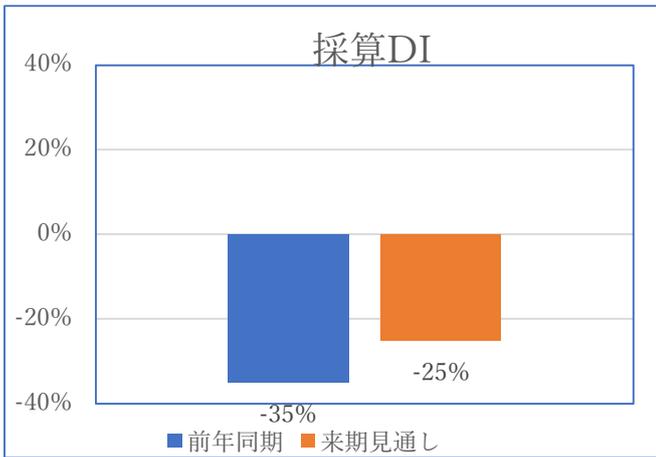
建設業の業況は、足元の受注環境の悪化が見受けられる。原価上昇の影響を上げる声が非常に多く、採算面での不安が継続している状況である。資金繰りの悪化も進んでいる。

完成工事高DIは前年同期+5、前期▲5と足元で低調に転じ、今後の見通しは▲10と先行きの受注が低下する懸念が見受けられる。

材料仕入れ単価DIの続いている、前年同期で値上がり+85 大多数の企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+70と材料価格の上昇を懸念する声が大半である。採算DIも前年同期▲35、来期は▲25と不安の声が多い。資金繰りも前年同期、前期とも▲15、見通しは▲25と厳しい状況に拍車がかかっている。設備投資も低調な状況が続いている。

個別企業の声としては、春先に向けて引合いは増えてきました。材料は相変わらず上がる一方だ。ただ今年に入って相場で左右される材料（赤松・合板等）が初めて下がりました。材料も確保しやすくなってきています。このまま下がってほしい。施主に提示する価格を上げると施主が負担できないので失注する。材料が年に2回3回と上がり請負価格が合わなくなっている。など受注面の改善の声と原材料値上がりの声が多い。





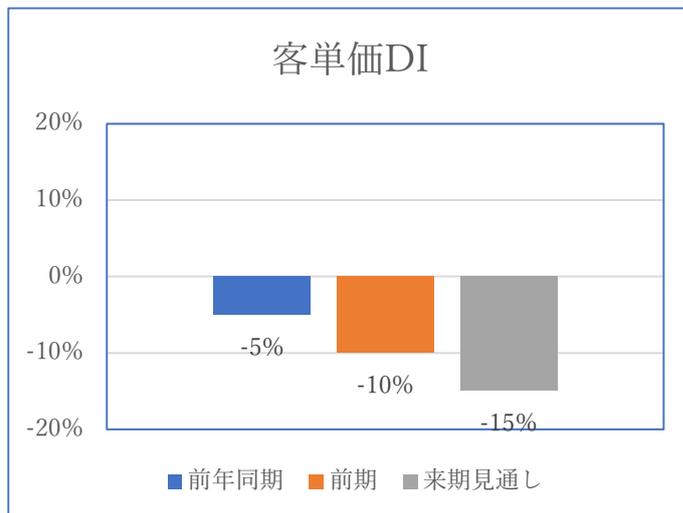
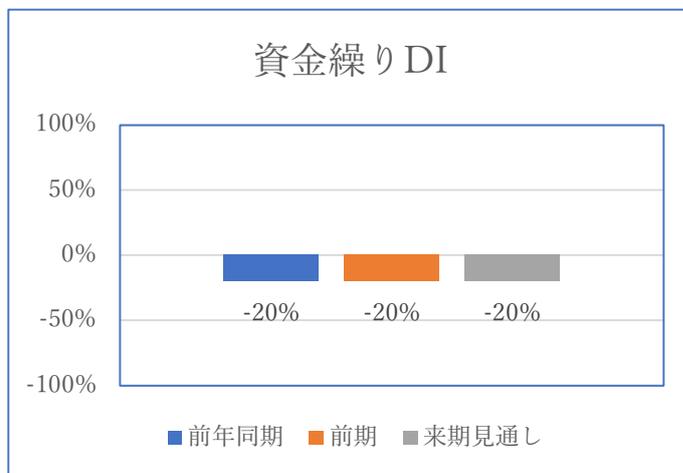
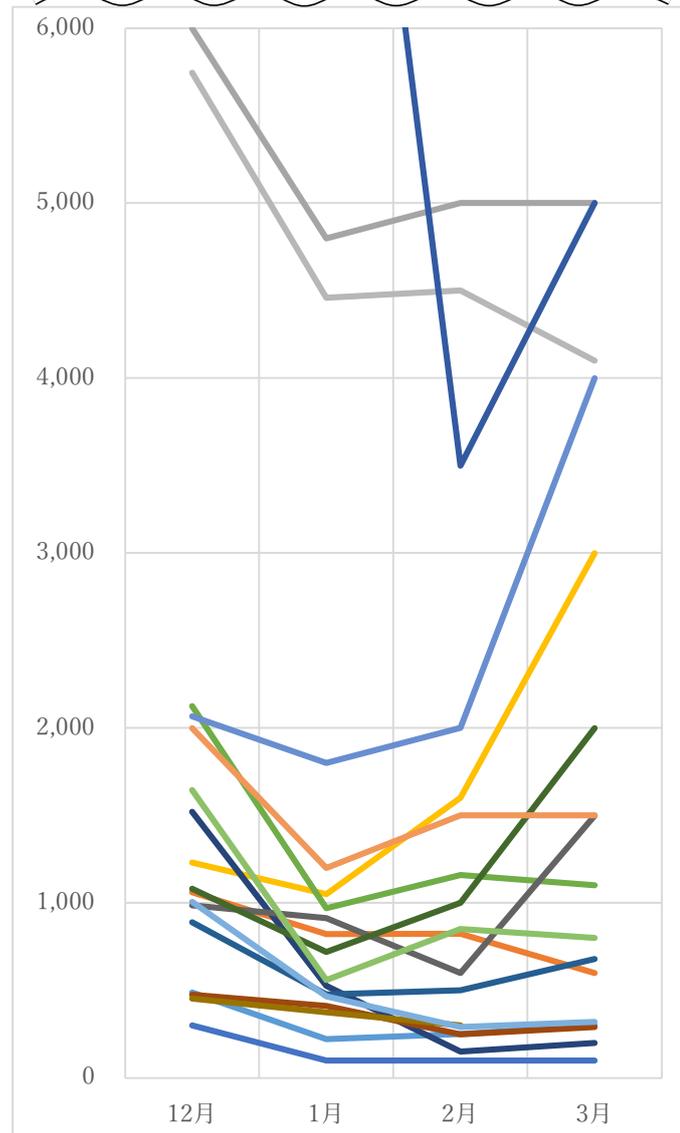
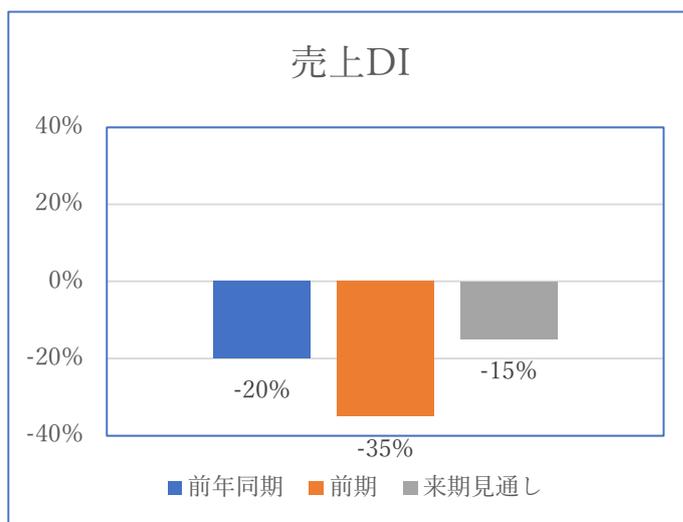
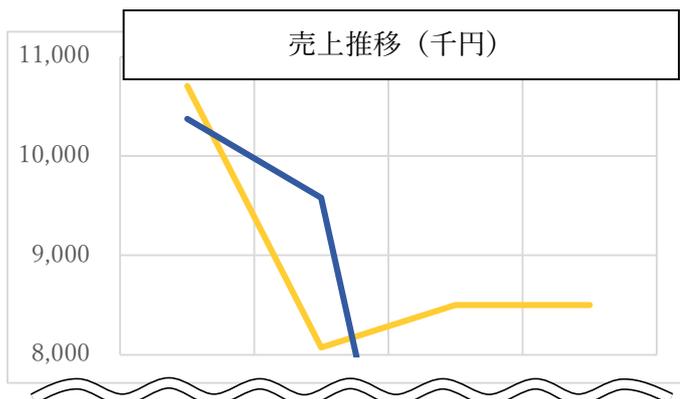
卸小売業（2023年1月～3月）DI 値抜料

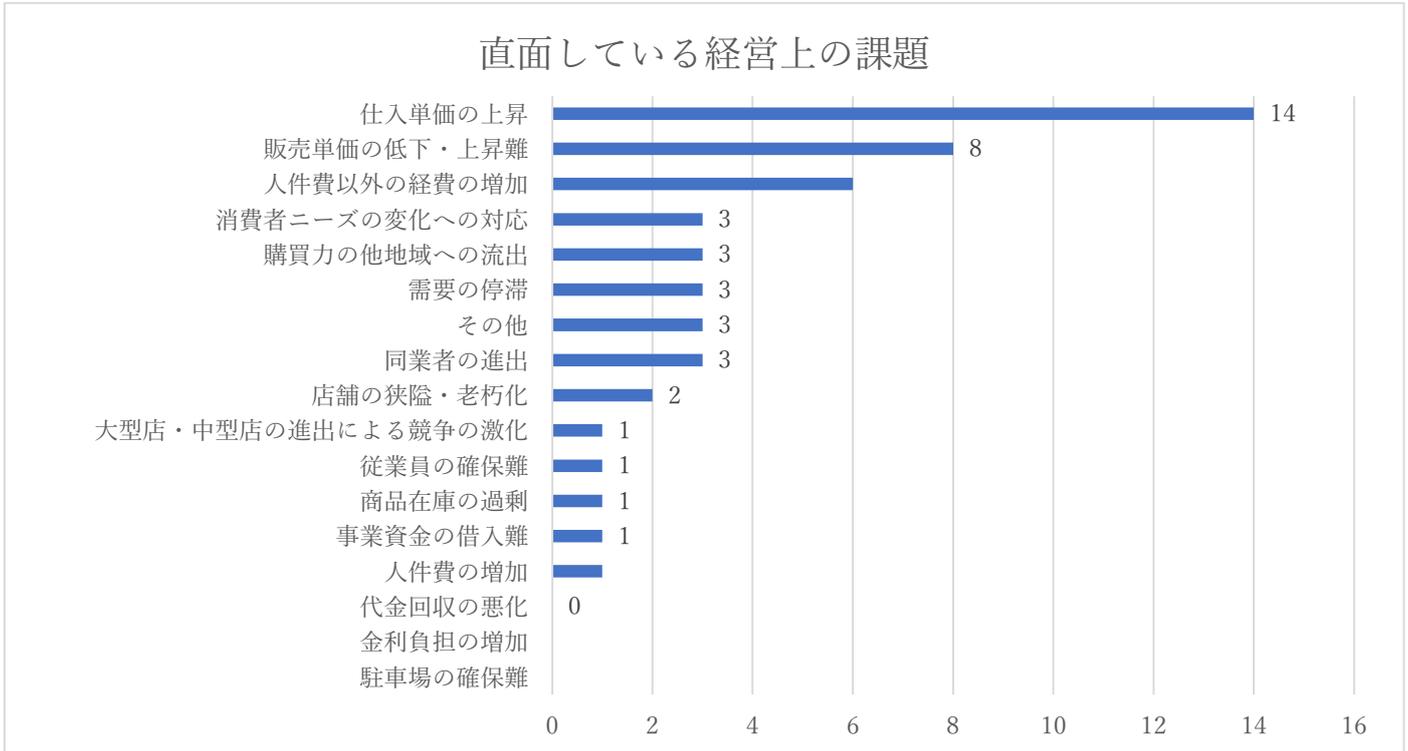
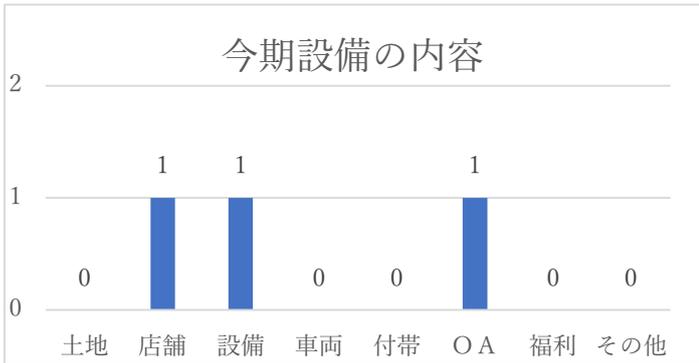
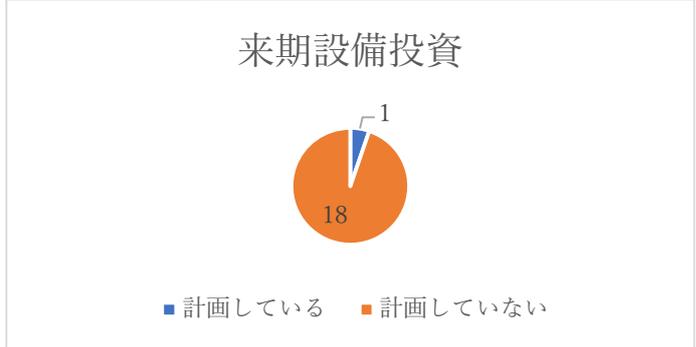
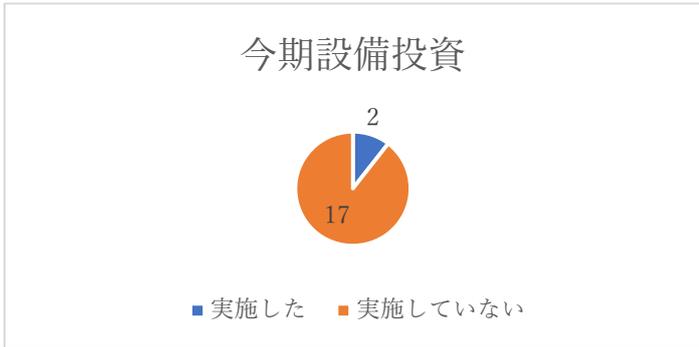
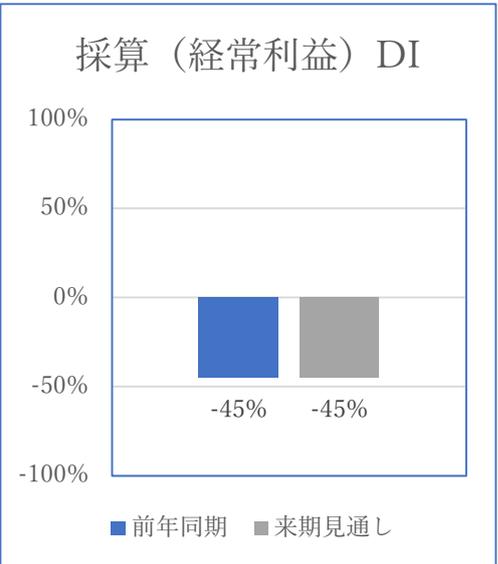
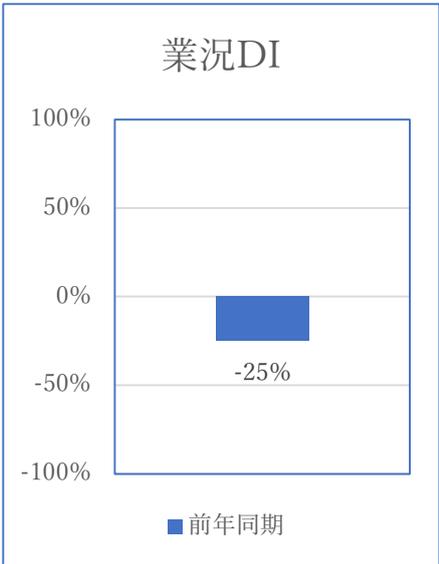
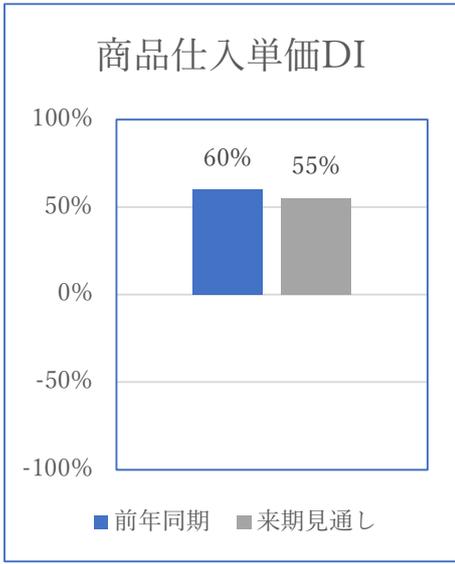
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、コロナ終息後の好転には至らず、仕入価格の上昇で資金繰り面の不安も続く、回復が見通しづらい状況である。

売上DIは前年同期▲20、前期からは▲35と直近の下落が目立つ。来期の見通しも▲15と低調な見通しである。資金繰りDIについては前年同期、前期、来期とも▲20と資金繰り面に不安を抱える声が依然として大きい。客単価の減少傾向は前年同期▲5、前期▲10と低調で、来期見通しも▲15と厳しくなる傾向である。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+60、来期見通しも+55と収益を圧迫しており、業況や採算への影響がつづいている。設備投資は引き続き動きが少ない。

個別の声として、コロナ対策の振興補助金やしが割りなどが功を奏して、売上増加している。と経済対策への高評価がある一方、メーカー品の仕入れができない、1月にも値上げがあった、4月からも50%上がる、仕入れ先の廃業がある、卵や乳製品まで値上げとなる、販売資材も値上げとなっている、など、あらゆる値上がりは小規模卸小売業に悲鳴を上げている様子が浮き彫りとなっており、厳しい経営環境が続いている状況である。



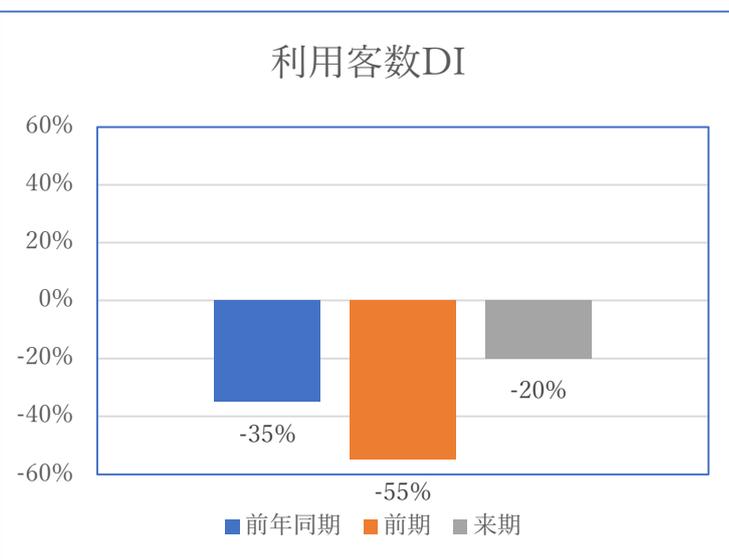
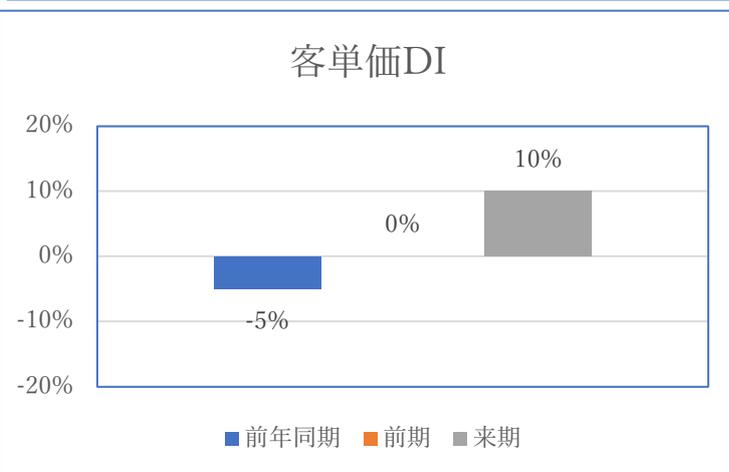
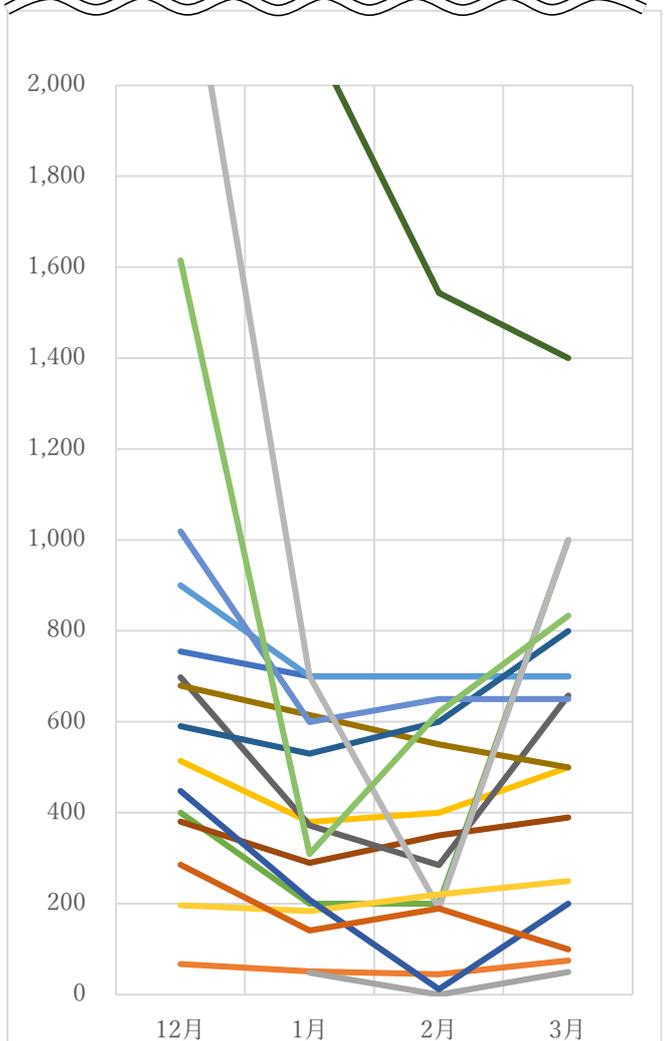
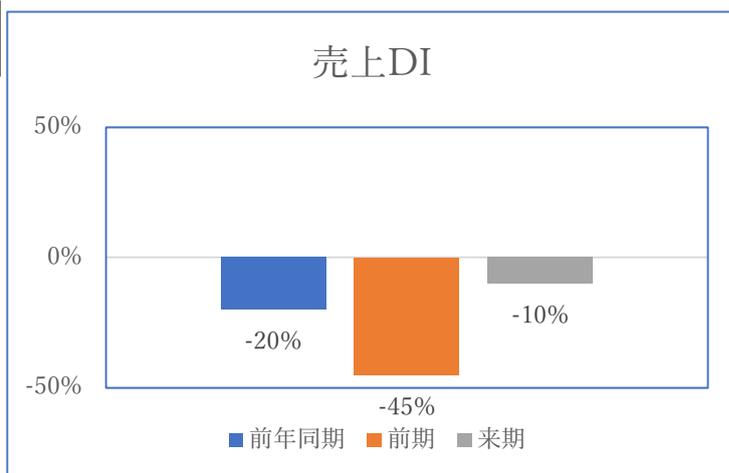
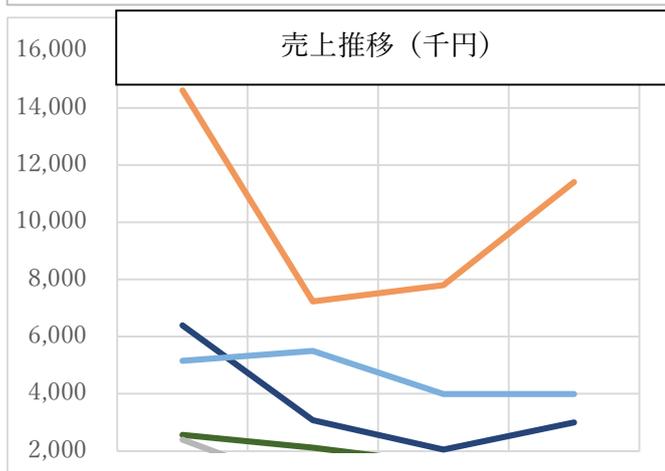


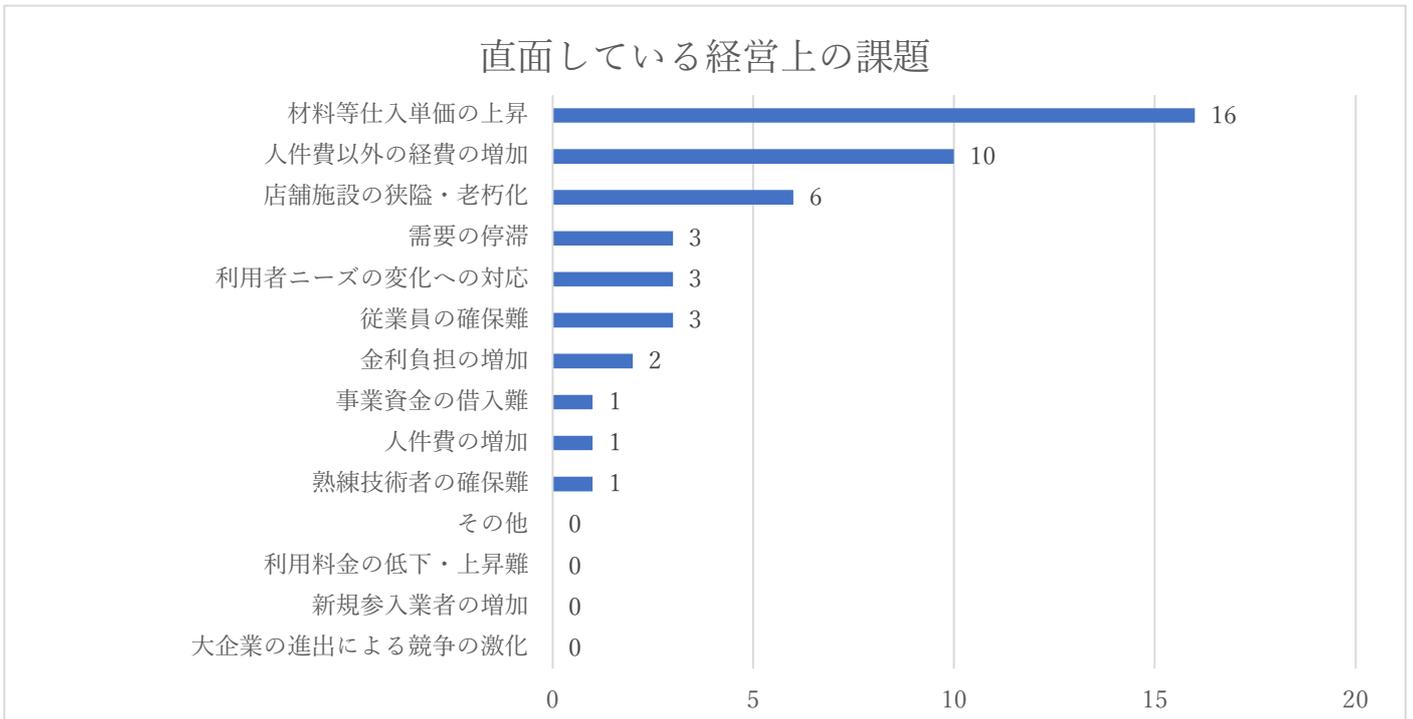
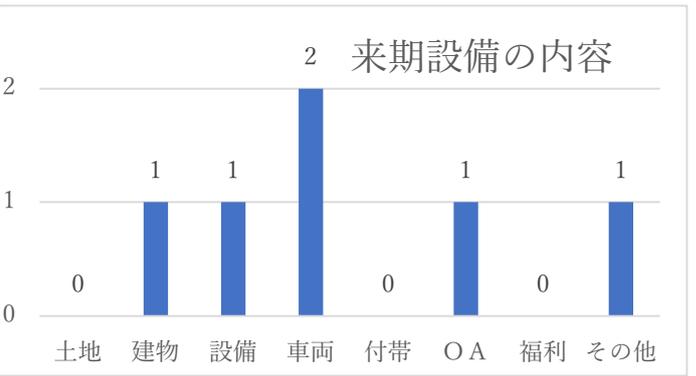
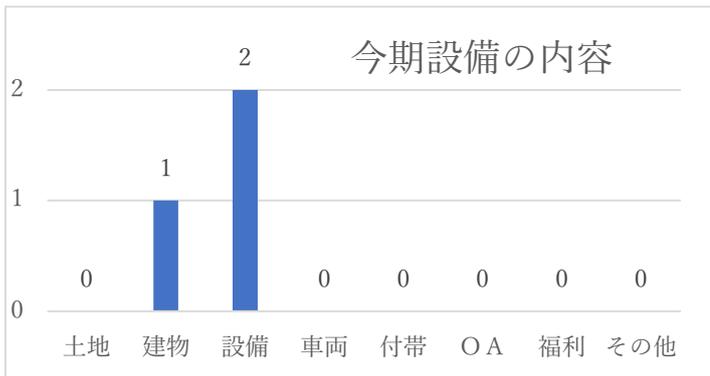
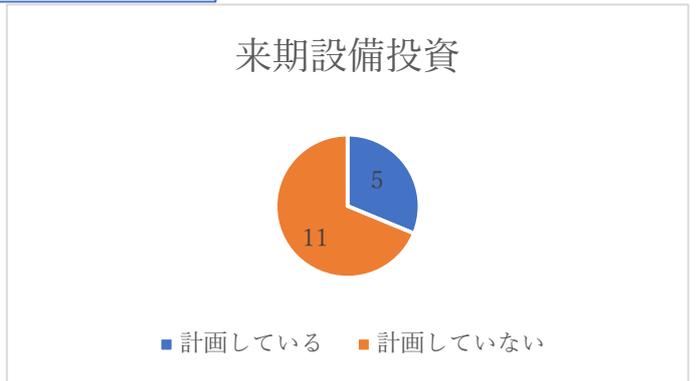
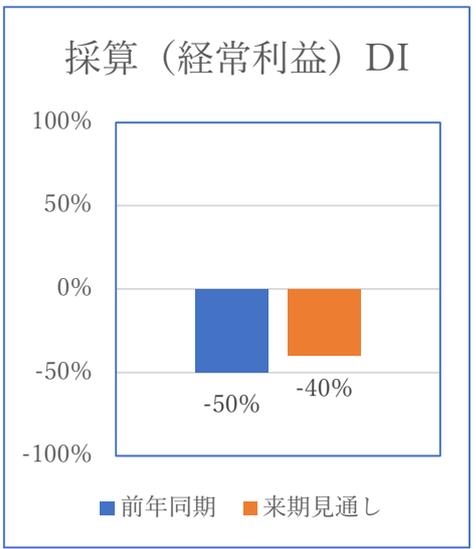
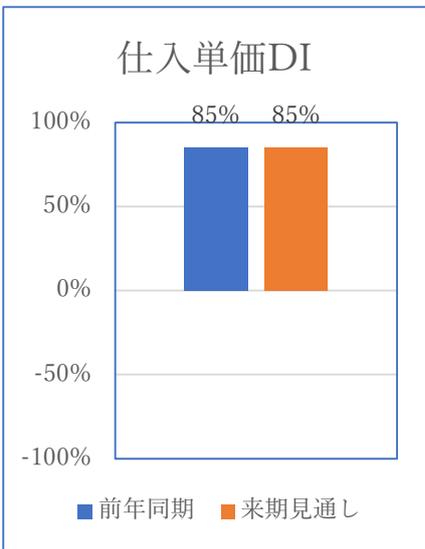
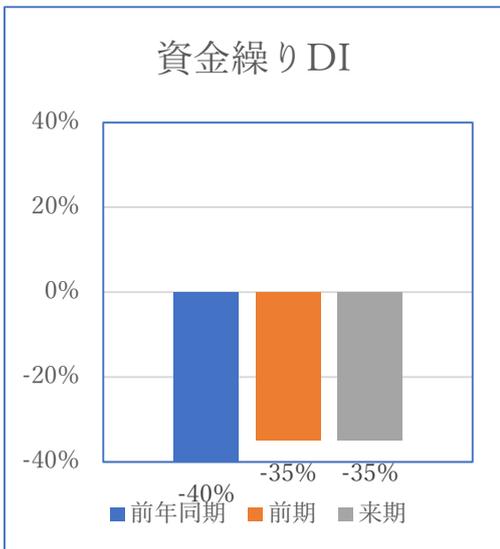
飲食宿泊業（2023年1月～3月）DI 値抜粋

コメント

飲食宿泊業の業況に関するDIは、コロナ後の景況回復が感じられない状況が続いている。売上DIは前年同期▲20と昨年からの回復は乏しく、前期▲45と足元の売上が失速している、来期も▲10と先行き不安の声が多い。客単価DIは前年同期▲5、前期±0、来期は+10と若干の回復を見込んでいる。利用客数DI前年同期▲35、前期▲55、今後の見通しは▲20と客足が遠のく状況が続いている。資金繰りDIは前年同期▲40 前期▲35 来期▲35と足元の資金繰り悪化が継続している。仕入単価の上昇が前年同期来期見通しとも+85と原価上昇の状況が顕著である。採算も前年同期▲50 来期見通し▲40とコスト増で悪化している。設備投資は来期に向けて件数が増加している。

個別の声として、落ちた売り上げは戻らない、材料費増加で利益が出ているかわからない。各種会合、法要等の人数の減少による売り上げの減少、仕入価格の上昇で利益が出ない、コロナが収束しても元にもどるとは思えない。借入れが嵩み、リース代などで返済額が大きいところに材料単価増加で今後に不安がある。といった厳しい声がある一方、旅館やレジャー施設では、全国旅行支援の追い風もあり順調に回復基調にある、燃料費や食材費アップの経費増加は懸念である。パート従業員の確保が経営上の喫緊の課題という、回復傾向の中での経費増加や人手不足の声がある。



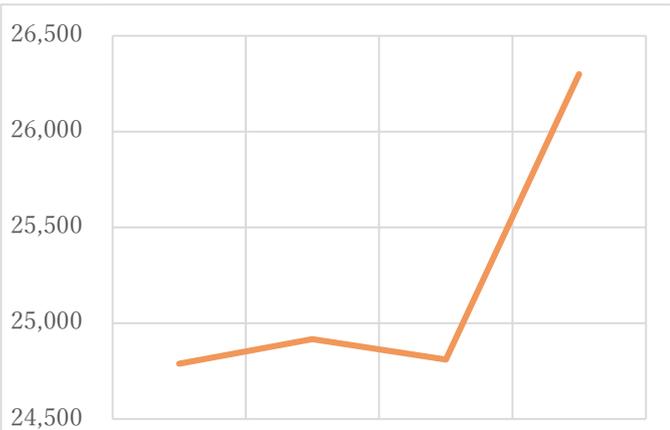


サービス業（2023年1月～3月）DI 値抜粋

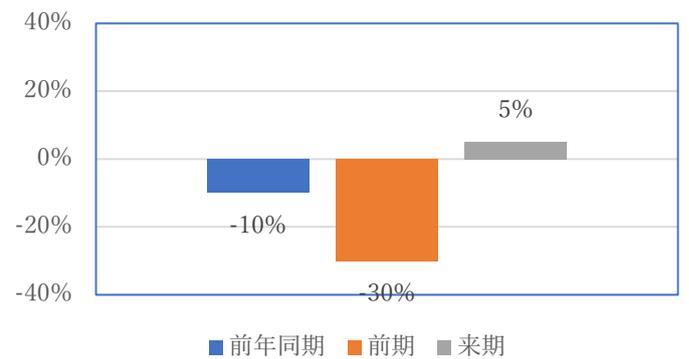
コメント

サービス業の業況は売上の持ち直しの動きが衰え、コスト上昇により採算面が厳しい状況が続いている。売上DIは前年同期▲10、前期▲30と足元で失速している、来期見込みは+5と下げ止まりの傾向である。客単価DIは前年同期+20、前期+10、今後の見通しも±0と低調な状況で膠着している。客数DI前年同期▲10、前期▲35、今後の見通しは▲5と回復は見えていない。資金繰りについて前年同期前期来期ともに▲10と懸念が続いている。仕入単価DI前年同期+55来期見通し+55と上昇傾向が続いている。採算DIの前年同期▲40、来期見通し▲30となり原価上昇が採算面に悪影響を与えている。個別の声としては、昨年度末位より光熱費のうち電気代の上昇には目をみはるものがある。商材の値段が上がっており、利益確保もきびしくなってきた。物価高騰により整骨院の利用の手控えを感じる。料金を上げたいが、上げるのも怖い。長浜市に再度ペイペイ等のイベントをして頂けるとありがたい。介護施設において食材やガソリン代、電気代などどんどん価格が上昇するが、介護保険からの収入はまったくかわらないので、経営が苦しいという、切実な声がある。

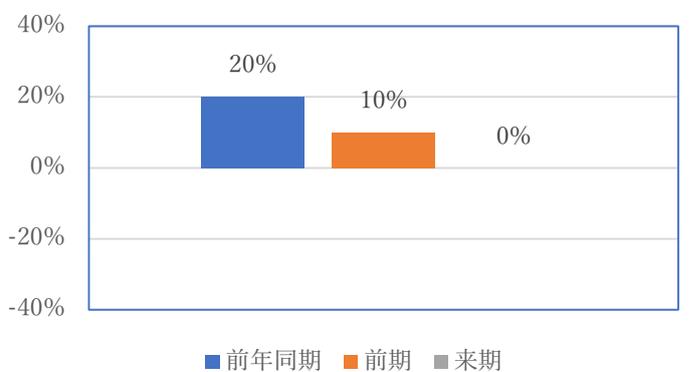
売上推移（千円）



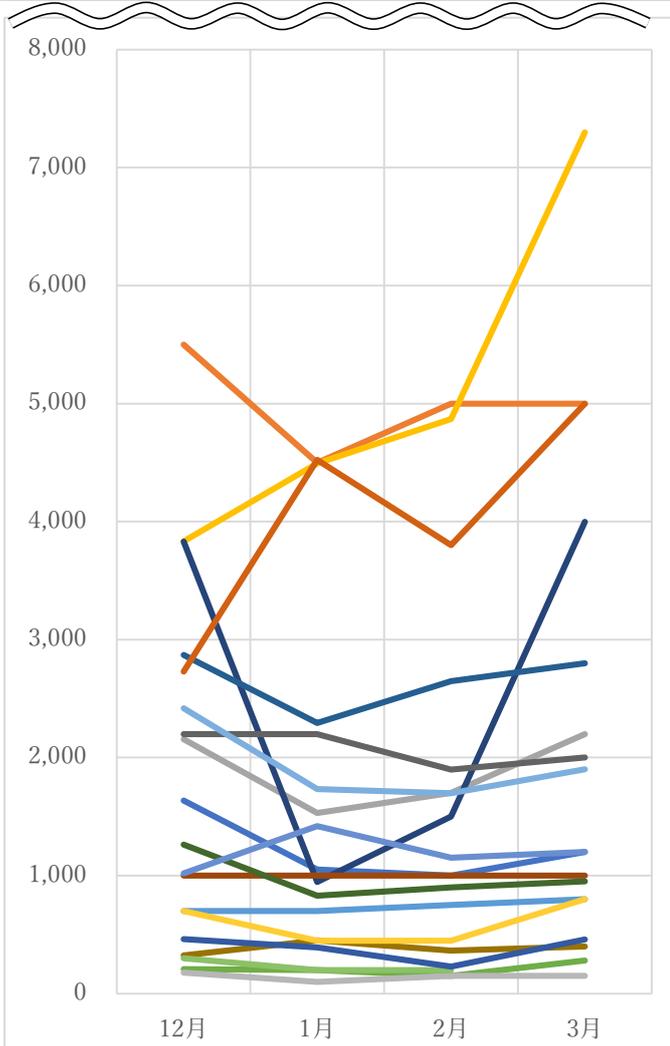
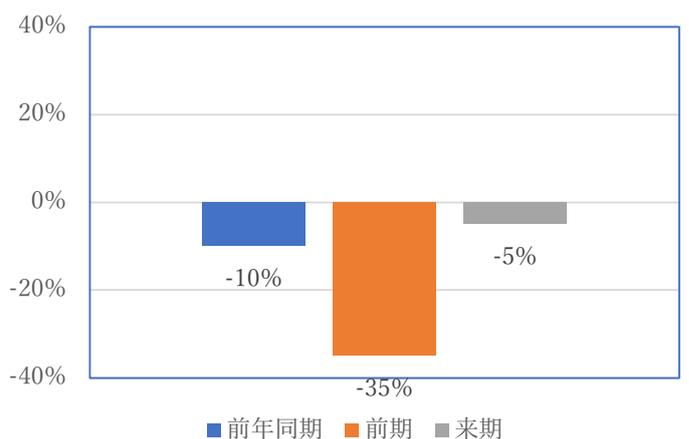
売上DI

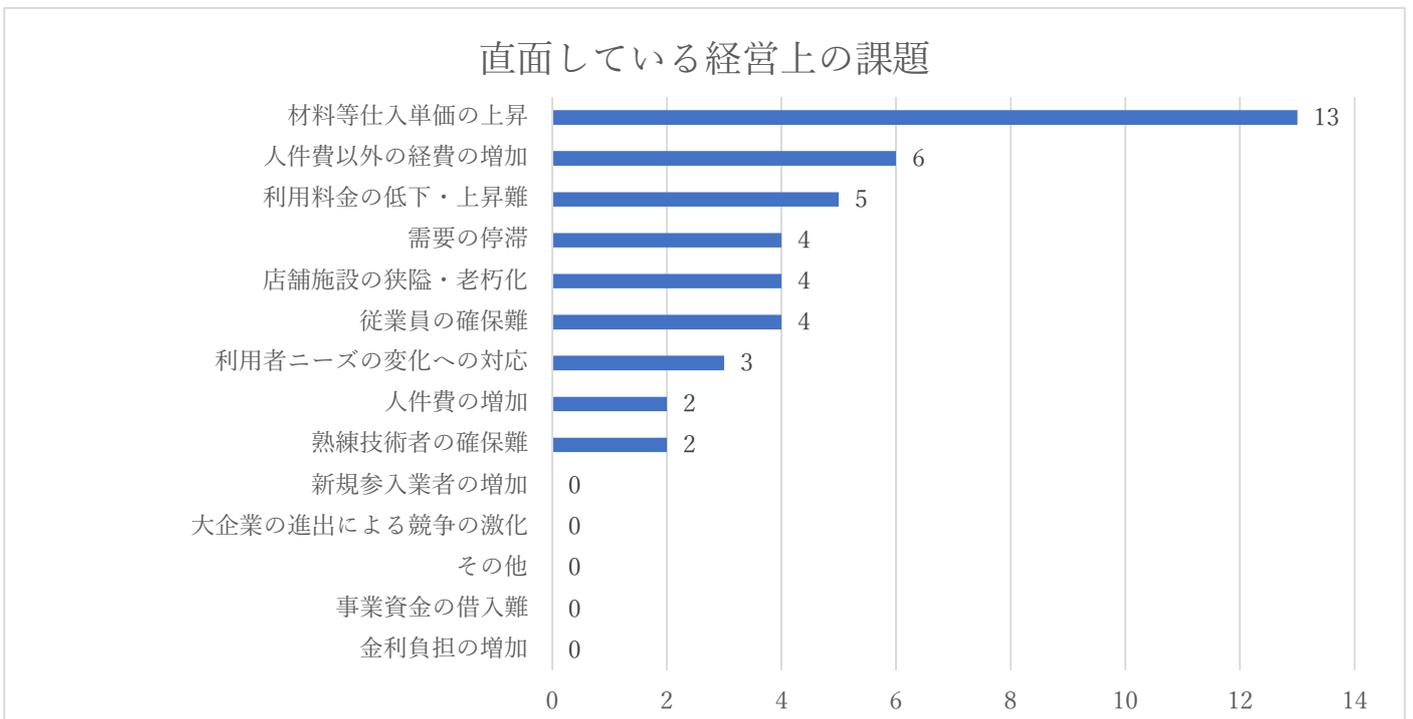
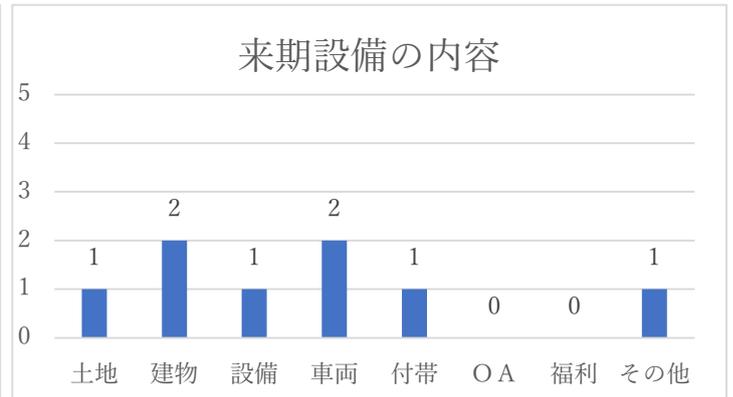
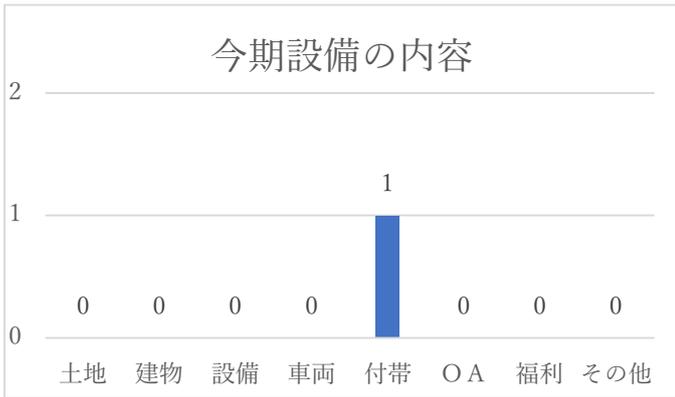
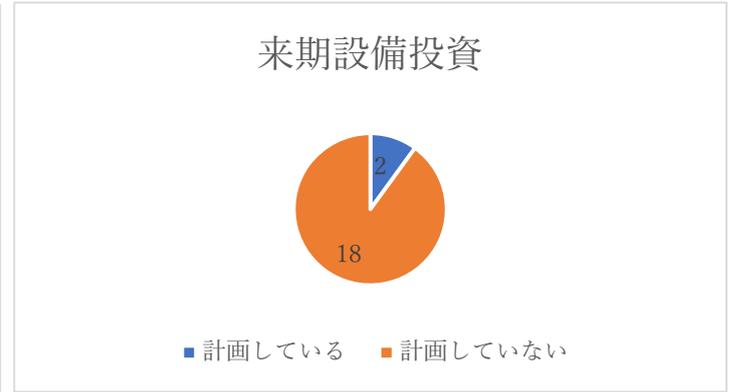
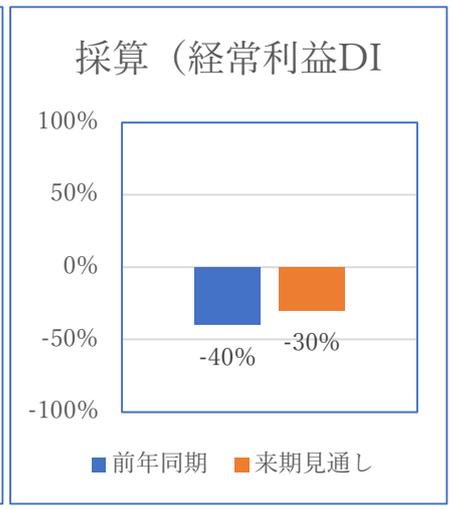
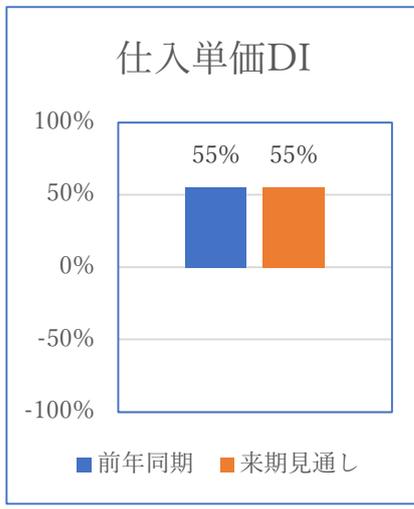
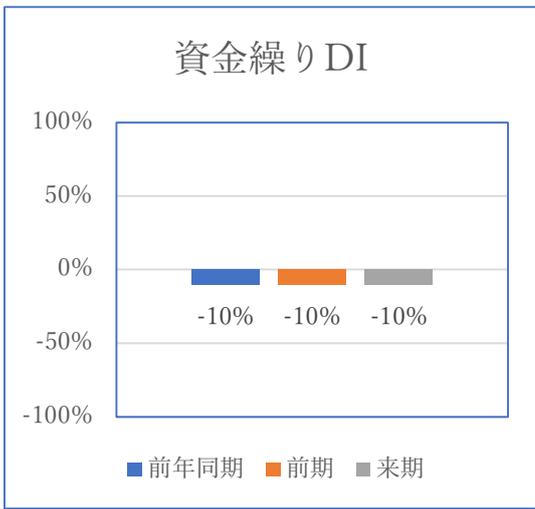


客単価DI



利用客数DI





小規模企業景気動向調査 [2023年1月期調査]

～コスト高騰と物価高騰による消費者の節約志向から、苦境に立たされる 小規模企業景

<産業全体> コスト高騰と物価高騰による消費者の節約志向から、苦境に立たされる小規模企業景況

1月期の産業全体の業況は、年末年始のイベント需要が落ち着き、全DIが大幅に悪化した。特に全業種で採算DIが大幅に悪化しており、価格転嫁が追いつかず、コスト高騰が経営を圧迫している。また、物価高騰による消費者の節約志向の影響や、今後の見通しへの不安感と、後継者不足や代表者の高齢化とあいまって廃業を選ぶ事業者も多い、とのコメントがみられた。

DI	12月	1月	前月比
売上額	2.5	▲ 3.6	▲ 6.1
採算	▲ 42.4	▲ 50.5	▲ 8.1
資金繰り	▲ 32.7	▲ 37.7	▲ 5.0
業況	▲ 27.7	▲ 33.5	▲ 5.8

<製造業> エネルギー価格や原材料費等のコスト高騰から、採算DIが圧迫される製造業

製造業は、採算DIが大幅に悪化し、売上額・業況DIが小幅に悪化した。燃料価格高騰による電気代等の値上げが採算DIの悪化に繋がっている。食料品関連は、仕入価格やコスト高騰に価格転嫁が追いつかず、全DIが大幅に悪化した。繊維関連は、資金繰り・業況DIがわずかに改善し、売上額DIが小幅に悪化した。機械・金属関連は、資金繰りDIが大幅に改善した。半導体不足が解消され始めたことや、輸出における円安の効果から改善傾向が見られた。

DI	12月	1月	前月比
売上額	2.6	▲ 0.4	▲ 3.0
採算	▲ 49.3	▲ 54.9	▲ 5.6
資金繰り	▲ 37.9	▲ 39.9	▲ 2.0
業況	▲ 31.9	▲ 34.8	▲ 2.9

<建設業> コスト高騰と人手不足から採算DIの悪化に苦しむ建設業

建設業は、全DIが大幅に悪化し、特に採算DIは前期より2桁pt超悪化した。売上額DIは前年同時期より改善しているが、採算DIは同時期より悪化しており、コスト高騰が採算性を悪化させている。業界全体として、人手不足による工期延長が売上減少を招いていることや、人件費の底上げの影響もあり、経営改善の見込みが立たない状況に陥っている。

DI	12月	1月	前月比
売上額	7.1	▲ 0.5	▲ 7.6
採算	▲ 40.7	▲ 52.3	▲ 11.6
資金繰り	▲ 30.8	▲ 37.8	▲ 7.0
業況	▲ 27.9	▲ 35.5	▲ 7.6

<小売業> 消費者の節約志向から価格転嫁に踏み切れず、コスト高騰に苦しむ小売業

小売業は、全DIが大幅に悪化し、採算・資金繰りDIともに直近1年間の中で最も低い数値であった。物価高騰や電気・ガス代の高騰が消費者を節約志向にさせており、小規模事業者は価格転嫁がしにくい状況となっている。衣料品、食料品関連は全DIが大幅に悪化、一部ではコロナウィルス感染症の落ち着きによる売上改善が見られるものの、コスト負担の増加に価格転嫁が追いついていない。耐久消費財関連は、採算DIが大幅に悪化し、売上額・資金繰りDIが小幅に悪化した。

DI	12月	1月	前月比
売上額	▲ 5.2	▲ 12.6	▲ 7.4
採算	▲ 49.7	▲ 57.1	▲ 7.4
資金繰り	▲ 38.7	▲ 45.9	▲ 7.2
業況	▲ 36.1	▲ 43.1	▲ 7.0

<サービス業> 閑散期による売上減少に加え、コスト高騰に苦しむサービス業

サービス業は、売上額・採算・業況DIが大幅に悪化し、資金繰りDIは小幅に悪化した。旅館関連は、売上額・業況DIが大幅に悪化した。閑散期であることに加え、全国旅行支援の割引率の低下により、以前と比較すると、客数の増加が見込めない状況となっている。クリーニング関連は、コスト増加が止まらず、採算DIが大幅に悪化し、廃業を考える事業者も多い、とのコメントがあった。理・美容関連は、採算・業況DIが大幅に悪化し、特に採算DIは2桁pt超の悪化となった。

DI	12月	1月	前月比
売上額	5.5	▲ 1.1	▲ 6.6
採算	▲ 29.9	▲ 37.5	▲ 7.6
資金繰り	▲ 23.4	▲ 27.1	▲ 3.7
業況	▲ 14.7	▲ 20.4	▲ 5.7

調査概要

- ・調査対象: 全国約 300 商工会の経営指導員
- ・調査時点: 2023年1月末
- ・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※ DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。